

ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書

わが国においてウイルス性肝炎、特にB型・C型肝炎の患者が合計350万人以上とされるほど蔓延しているのは、国の責めに帰すべき事由によるもので、そのことは、肝炎対策基本法などの法律でも確認されているところであり、国の法的責任は明確になっている。

ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成は、現在、肝炎治療特別促進事業として実施されているが、対象となる医療が、B型・C型肝炎ウイルス減少を目的とした抗ウイルス療法であるインターフェロン治療とB型肝炎の核酸アナログ製剤治療に限定されているため、医療費助成の対象から外れている患者が相当数に上っている。特に、肝硬変・肝がん患者は高額な医療費を負担せざるを得ないだけでなく、就労不能の方も多く、生活に困難を来している。

また、現在は肝硬変を中心とする肝疾患も身体障害者福祉法上の障害認定（障害者手帳）の対象とされているものの、医学上の認定基準がきわめて厳しいため、亡くなる直前でなければ認定されないといった実態が報告されるなど、現在の制度は、肝炎患者に対する生活支援の実効性を発揮していないとの指摘がなされている。

特定B型肝炎ウイルス感染者給付金等の支給に関する特別措置法においては、「とりわけ肝硬変及び肝がんの患者に対する医療費助成を含む支援の在り方について検討を進めること」との附帯決議がなされている。しかし、肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成を含む生活支援について、何ら具体的措置を講じていない。

肝硬変・肝がん患者にとって、医療費助成を含む生活支援の実現は、一刻の猶予も許されない課題である。

よって、国におかれては、ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充のため、次の事項について実現されるよう、強く要望する。

- 1 ウイルス性肝硬変・肝がんに係る医療費助成制度を創設すること
 - 2 身体障害者福祉法上の肝機能障害による身体障害者手帳の認定基準を緩和し、患者の実態に応じた認定制度にすること
- 以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成26年12月19日

長崎県川棚町議会

【提出先】

内閣総理大臣	安倍	晋三	様
厚生労働大臣	塩崎	恭久	様
衆議院議長	町村	信孝	様
参議院議長	山崎	正昭	様